

令和7年度職員団体との交渉結果（第2回確定交渉（部長1回目））

1. 交渉団体

滋賀県地方公務員労働組合共闘会議、滋賀県職員組合、全滋賀教職員組合、滋賀県公立高等学校教職員組合、滋賀県障害児学校教職員組合

2. 当局側出席者

総務部長、総務部次長、人事課長、他人事課員

3. 交渉日および場所

令和7年11月10日（月）10：15～12：00 県庁北新館5階5A会議室

4. 内容

人事委員会勧告の実施、前歴換算制度の見直しに伴う在職者調整、諸手当の改善、職員定数等、業務をカバーした職員に対する手当、フレックスタイム制、勤務間インターバルなど

5. 交渉状況

職員団体	県
物価高騰が続いていることから、物価高を上回る賃金水準や待遇の改善を求める。	人事委員会勧告を尊重する立場に変わりはないが、財政的な影響についても十分検討を行う必要があり、もう少し検討の時間をいただきたい。
中高齢層の賃金の改善のため、給料表の号給延長や55歳以上の職員の昇給抑制の見直しを行うこと。	給料表の号給延長や55歳以上の職員の昇給抑制は、過去から人事委員会勧告に沿って対応しており、今年度の勧告では言及がないため独自に対応することは困難である。
再任用職員について、定年前と同程度の仕事をしており、周囲からの期待も大きい中、責任を持って職務を遂行しているが、賃金水準が低い。モチベーション維持のため、また、若年層が定年後も希望を持って働くよう、待遇の改善を求める。	再任用職員の給料月額については、今年度は一昨年度および昨年度を上回る引上げとなっている。また、期末・勤勉手当の支給月数については、他府県の状況も把握しているが、勧告にない内容を独自に実施することは困難である。
初任給決定における前歴換算制度の見直しに伴う在職者調整の対象となる職員の範囲について、3年では短すぎる。民間経験を持つ全ての職員への在職者調整を行うこと。また、その際は在職者間の賃金水準の逆転が起きないよう調整すること。	在職者調整については、在職者間の賃金水準の逆転や部内均衡等を考慮して一定の範囲を対象に実施するものと認識している。国や他の都道府県で全ての職員を対象に実施した例は把握しておらず実施は困難だが、できるだけ幅広く改善の効果が及ぶよう検討したい。
水防待機や早朝業務のため、公共交通機関が運行していない時に自家用車で登庁した場合、交通費の自己負担が発生しているので実費支給を求める。	自宅から勤務公署への登庁は通勤行為であり、通勤手当が月額の手当であるという性質上、登庁日数に応じた調整は困難である。また、通勤行為としての性質上、旅費として支給することも困難であると考えているが、職務のための出勤行為に自己負担が生じている点について、課題意識は共有したい。
本県で開催された国スポ・障スポ大会後の人員の再配置はどのように実施するのか。	各職場の状況を聴くとともに、先県の状況等も踏まえ、12月1日を基本に、40名程度の規模で再配置を行う。

<p>育児休業等取得者がいる場合、前提として代替職員の確保や業務見直しによる業務の軽減が重要である。</p> <p>また、育児休業等取得者の業務をカバーした職員への勤勉手当加算を行うにあたっては、原資を捻出するために、標準の成績率の引下げは絶対に行かないよう求める。</p>	<p>まずは代替職員の確保を基本として引き続き努力したい。業務については全庁をあげてこれまで以上に見直し・効率化を進めることでワークライフバランスの実現につなげていきたい。</p> <p>育児休業等取得者の業務をカバーした職員に対する勤勉手当の成績率の加算についても検討しているが、これまで標準の成績率は引き下げずに、成績率の各区分の差があまりつかないように運用してきた。この経緯は尊重すべきものであり、皆さんの意見を踏まえて原資捻出の対応を検討したい。</p>
<p>勤務間インターバル制度は、結果的に長時間勤務になるおそれがある。長時間労働を是正する取組も併せて必要である。</p>	<p>勤務間インターバル制度は長時間勤務を容認するものではなく、あくまで職員の休息時間を設けることで、健康確保につなげるものである。「遅く出て遅く帰る」夜型勤務が常態化しないよう、午後9時30分には退庁を促し、基本的な始業時間である翌午前8時30分までの11時間をインターバルとして確保することを基本として運用したい。</p>
<p>フレックスタイム制について、育児や介護等の事情がある職員に限るとのことだが、限定する必要はない。特段の制約がない若手職員からの利用希望もある。</p>	<p>フレックスタイム制の導入により職員の勤務時間が一定ではなくなり、所属における勤怠管理がこれまでより難しくなる等の課題が考えられることから、まずは対象職員を限定し、試行的に導入したい。一定期間の試行の後、試行結果の検証を経た上で本格導入を検討していきたい。</p>